

# 創設一年後の所感

東京市永田町幼稚園長

榊 井辰次 郎

當幼稚園は昭和十三年四月二日に創設しました、たゞ一組で一ヶ年保育です。小學校校舎の一部を利用して居りますので、小學校に併置の形であります。本年三月第一回の保育終了兒を出しました、この通り簡単な幼稚園で、しかも私が園の經營は初めてですから、以下申し述べます感想は至つて平凡であります。若しもこりえが有るこしたら園兒の様な幼稚ささ、笑ふに笑へぬ正直さが表はれて居るかも知れませぬ、之も唯先輩である皆様の御指導を得たい許りに、倉橋先生の御勧めのまゝに、書き記すことにした次第であります。

## 幼稚園を置いてよかつたこと

◆之れ迄我が小學校一年生の入學當初は、まるで園兒入園の様な扱ひをした事が多かつた、上靴が脱げたきて履かせてやる、一寸泣いたからきて手を引いてやる、何ちやんお手でつないで、あんよを上げてなごこ、寵愛過ぎる點が、又しても見受けた、家庭でも同じで、下がないこ兎角赤ん坊扱ひになり易い、之は人情であるが、幼稚園が

出来てからは、一年生の先生も兒童も一段と變つて來たのが認められる、小學帽を冠つてランドセルをかけた昨日の園兒が妙に兄氣取りで敬禮をする、姉構へで園兒をかばつて居る、先生も以前はすつこ扱ひ方に割引がついて甘さが統制されて來た、これは幼稚園の出來たせいだご喜んでゐる。

◆凡そ園兒は必ず小學校に進むのですから、何時かは無しに小學校の状態を見覺える必要がある、たまには悪い風も覺えませうが、大體必要な節々を自然に會得して、知らず識らずに、校風にも染まるこ信じます、之れは園兒に取つて大切な獲もので、日課でない日課である門前の小僧に習はぬ經を、正しく讀ませねばならない點が含まれて居る、幼稚園を小學校に附設してよかつたこ、思つて居ます。

◆中學校あたりでも、新一年生が入學するこ珍らしいこ云ふより、幼い者が殖えたこ云ふ氣持で、校内が何んこなく和やかになり、教師の間にも上級生の間にも、一種の

潤ひが湧く。高等小學校でも男子校女子校と區別するよりは合同收容の方が教育上自然で和やかである、一家でも子供のない家庭は慥かに物足りなさがある、私は我小學校に幼稚園が出来て可愛い園児の殖えたことが學校全體に著しく家庭味と相愛味が増して、急ぐ便所をゆづつたり、幼弱扶助の場面を度々認めて喜んでをります。

小學校でも良訓導となるにはなかく、むづかしいことではありませんが、幼児保育上にも優良保姆となるのも、亦別様の苦心と修養が必要で、決して容易な業ではないと思ひますが、私が今保姆先生に希ふ所の一、二は、凡そ次の様なものであります。

### あつて欲しいこと

◆第一に健康で、まめに働いて勞を厭はぬ素直な心身の持主であつて欲しいことです。

◆ごんなにまめに親切に世話をする人でも、無表情では、落第でせう、働く「マネキン」では凡そ意味が無いでせう。「あら可哀想」云ふ同情、「しつかりがまんして」云いふ堅忍不拔、「よく出来ました」云いふ満足、「おもしろいね」云いふ快感、「靜かにお行儀よく」云いふ壯重敬虔、等わざらしくない自然な心からなる表情が場合々に應じて發露して欲しいものです、薰化感化徳化で行く保育事業には、是非ともこゝに氣をつけて欲しいと存じます。

◆さりきて餘り氣がつき過ぎて轉々世話の仕過ぎるの  
は、又褒めた話してではない、之を喜ぶのは、判らぬ母親  
丈けでせう、火のつく様に泣く兒を、ぢつと見て居る場  
合も有る筈である、撫でたり抱いたりするのも、なかなか  
か手加減もので、豊臣秀吉や徳川家康の様な英雄の氣性  
を、一人で使ひ別ける分別が有つて欲しい。鳴かぬなら  
鳴かせて見せう時鳥。鳴かぬなら鳴く迄待たう時鳥。

◆園児はこわい程本氣に眞面目になるもので、うつかり冗  
談も言へませぬ。一本の棒切がお馬になつたり、鐵砲に  
なつたり、刀になつたりします、それが眞剣で心から、  
さう信じて扱つて居ます、かりにもしお猿の役が當つた  
とすると、恥かしくなんぞは微塵もない、可愛や全力を  
込めて、お猿になりきるでは有りませんか。保育の任に  
當る方々は、邪念なしに眞に子供になつて、彼等と生活  
を相共に子供になりきる覺悟が有つて欲しいものです。

私には幼稚園が春の花園と思はれてなりません、幼稚園  
に何時行つて見ても、心自ら晴れて、少しも邪氣が起りま  
せん、さの子供を見ても、無邪氣で純眞無垢で、可愛さが  
溢れて居る。肥つたのも可愛い、細いのも可愛い、丸るい  
のも可愛い、角のも可愛い、するこゝ爲すこゝ皆可愛い。  
自分が年を取つた故で、かくも可愛いのかとも考へる、な

て考へ得るのは各家庭の職業の影響が此『家の畫』に可成り面白く出てゐたことであります。

これは特に種々雑多な商業家庭を多く持つてゐる神戸幼稚園のみについて研究してみましたのに其の結果は第八表の様でありました。

其の家庭が店舗でない家の幼児は全部職業的表現を示さず、その家庭が何かの職業を営む場所である家の幼児は第八表に示されてゐる様な百分比で其の職業を表現して居るのであります。

#### 四、總括

以上を總括致しますのに

一、幼児の『家の畫』に於ては、個別的に各家庭の影響が表現されるよりも、寧ろ幼児一般の持つ家言ふものゝ觀念が殆んど共通的な表現に於て現はされるこゝがわかります。

二、家そのものゝ表現はこれを年齢的にみますと單なる家屋から出發して家屋の内部、外部、及び多くの家の並びといふ様に次第に内容が増して發達して行く事がわかります。

三、描畫に對する幼児の氣持は『家の畫』に對しても自由畫に於けると同様に自由に楽しく描く事がわかります。

四、家の種類、家の附屬物、家具、人物、家に屬しない事

物及び風景等につきまして、先に表について申し上げました様な有様で、幼児の興味のあるところがわかるのであります。

(一〇頁より)

ぜかうも可愛いものか、可愛い蕾の春の花園に這入つたと同じで、天國に遊ぶ思ひがする。罪なき幼児は神の子である、感化は却つて幼児から受ける、浸みこみ幼児の尊さに打たれる、私は幼稚園が大すぎです。當園創設準備について檜山京子先生に御骨折頂いたことを思ひ起し茲に本紙上を拜借して御禮を申し上げます。